

「ポリファーマシー（多剤併用）」について

薬剤師 島田 いく子

ポリファーマシーとは、「poly（複数）」＋「pharmacy（調剤）」からなる言葉ですが、近年、多剤服用や多剤併用を意味する言葉として注目されています。複数の医薬品が処方されることは、様々な疾患を抱えている高齢者などにおいて少なくありませんが、なぜ今注目されているのか説明したいと思います。

＜ポリファーマシーとは＞
単純に複数の医薬品を使用している状態を指す言葉ではありません。仮に多くの医薬品を使用しているても、患者さんの治療や健康管理に必要な場合は、ポリファーマシーではありません。ポリファーマシーとは、様々な要因によって「必要以上の医薬品を使用している状態」を指します。

＜ポリファーマシーの背景＞

- ・複数の診療科から同じような作用のお薬が処方される。
- ・使用している薬の副作用と気付かず、その副作用の症状を抑えるため更に薬が処方される。
- ・患者が処方された薬を正しく服用せずに残してしまう。医師は症状が改善しないと薬が効いていないと判断し更に薬を処方してしまう。

＜高齢者とポリファーマシーの問題＞
高齢者は複数の疾患に罹っていることが多く、その分、使用する薬の数が増える傾向にあります。また、加齢に伴い消化吸収や代謝機能が衰えるため、薬の効き目が弱い場合や、逆に強すぎてしまう場合があります。若年者よりも副作用のリスクが高まります。特に抗不安薬や睡眠薬は、筋肉の緊張をゆるめたり平衡感覚に影響を与えたりすることから、高齢者を中心にふらつきや転倒のリスクが問題視されています。

＜ポリファーマシーの解決に向けて＞
減薬をはじめとする医薬品の適正使用に向けた取り組みのひとつとして、2016年の診療報酬改定において「薬剤総合評価調整管理料」や「薬剤総合評価調整加算」が新たに定められ、使用する医薬品を適正に減らすことが評価されるようになりました。ポリファーマシーの解決には医療スタッフ、患者さん、国が一体となって取り組んでいくことが大切だといえるでしょう。